

こんなところに 市民憲章

1. 富士山のように 美しく
自然を愛し
きれいな環境をつくります

日の出を見るのが楽しみ

ここは、鈴川中町の海岸。松林と青い海。遠くに見える赤灯台と白灯台。景色は抜群なのに、なんと、足元にはたくさんのごみ。

近くに住む長沼彦治郎さん72歳は、このごみを毎朝清掃しています。竹村満さんからいただいた「市長への手紙」の中の「熱心なボランティアの方」というのは、実は、長沼さんのこと。

「釣りの人が『ごくろうさま』と言ってくれるのがうれしいですね。私なんかよりも、浜町西通りの川上^{ひろし}敏さんが、ずっと長く清掃してくれています。日の出を見るのが楽しみで、きょうまでやってきたようなものです」



釧路市は、札幌から三百九十キロメートル。有名な釧路湿原や、タンチヨウヅルが飛び交う霧の町。今回は、昨年四月に釧路から引越してこられた、本市場の柴田藤雄さんのお宅におじゃましました。

雪が全然降らないのが 寂しいくらい

|| こんなには市民一年生です ||



——富士市の住み心地は

ゆき子さん「雪が全然降らないし、雪がないのが寂しいくらい。小さいけれど、市営のスキー場もあつたんですよ。洗濯物が天日で乾くのはいいですね。釧路では、住宅の地下に乾燥室があつて、そこで乾かしていました。サウナみたい、とても暑くて」
大輔くん「学校が近くてうれしい。今までは、三十分くらいかかった。藤雄さん「一年中、花が咲いているのがうれしいね。冬には花がなかったから。天気の良い日には富士山が見えるし、水はおいしいし、ちよつと、空気は悪いけれど」
ゆき子さん「信じられないくらい富士山が大きくて、びっくりしました。テレビでしか見たことなかったから」
——食べ物はいかがですか
ゆき子さん「魚の種類が少ないみたい。でも、野菜はたくさんありますね」
藤雄さん「マグロのさしみや、アジのたたきはおいしいと思つた」
ゆき子さん「釧路の冬は、魚はとても豊富ですよ。「なべ料理」をよく食べました。タラだったら、しょうゆ味で。生シヤケは、みそ味で。*メンメもおもしろかった」
*キンメと似たような魚だそうです。
かおりちゃん「向こうでは、月二回くらいラーメンが出たけれど、こつちは、この間一回きりだった。給食でラーメンが出ないから、つままない」
大輔くん「富士は給食を着るけれど、釧路は着ないよ」
——ありがとうございます

もう一つの生き方
仕事人間やめて

村山尚秋さん

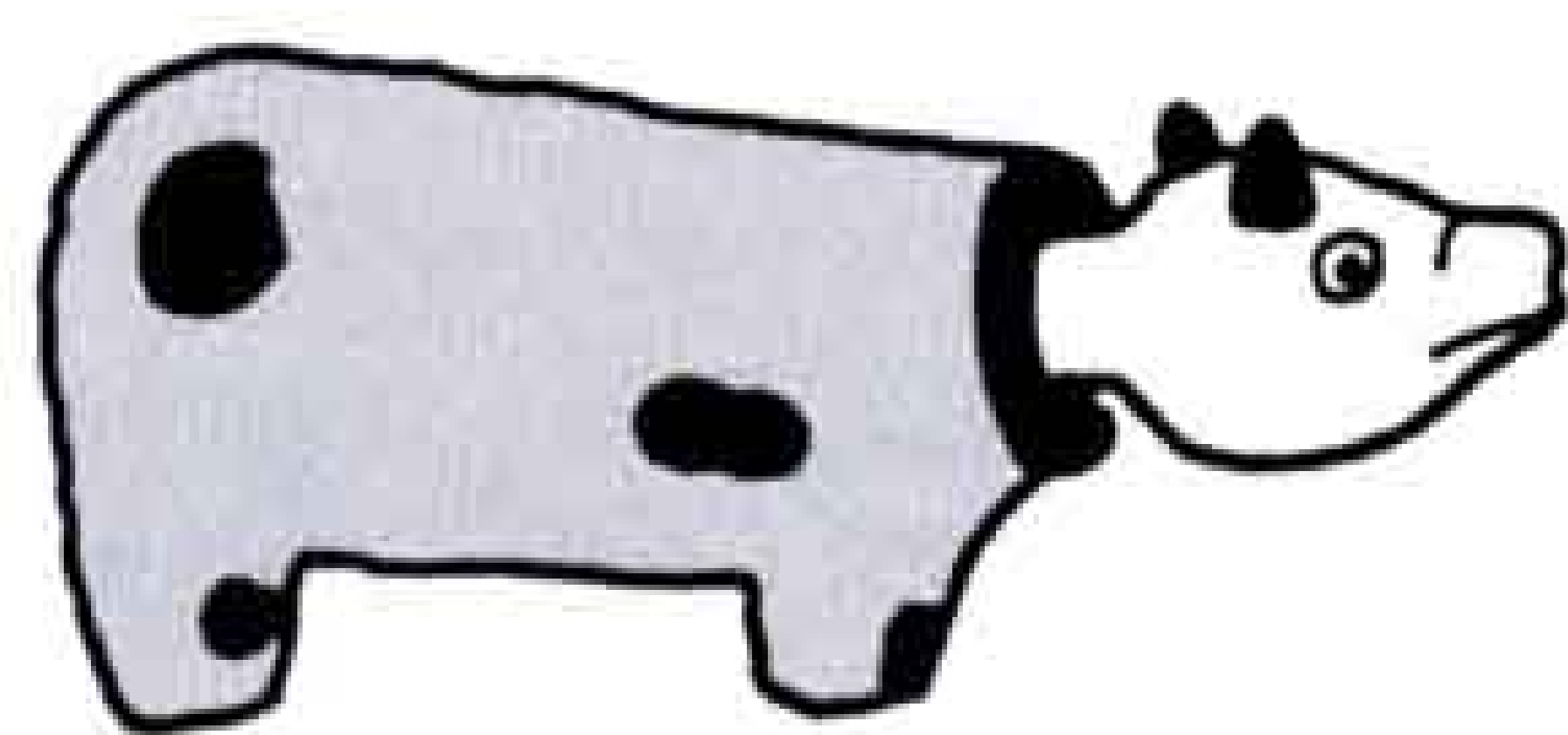
(富士見台・51歳)



肩

の力を抜いて。

まきストーブの燃えている部屋。ストーブの上にはやかん。時々、まきのはぜる音。時がゆっくり流れて行くよう。この部屋で村山尚秋さんは、昼間はもっぱら読書と塾の資料づくり。また、合間には絵を習ったり、英会話の勉強をしたり。夜は、数学の塾講師。今でこそ、「出世したいとか、名声を上げようとか、そんな気持ちにはさらさらないから、肩の力を抜くことを覚えた」と話す村山さんですが、一昔前までは猛烈な仕事人間。組織の一員として、工場



ひと

自

由な行動。

村山さんは、「あくせくせず、自由な発想で行動できる今の生活で十分満足だ」と言い切っています。「もちろん、女房の理解があつたればこそですが」とも。

自分のつくった野菜を食べ、テントを持つての気ままな旅行そして、手づくり小屋で仲間とバーベキュー。かつての生活から百八十度転換した、もう一つの生き方を実行しています。